

令和6年度 第1学年授業改善推進プラン

	伸ばしたい力	授業改善プラン	評価（１～４）	
			2学期	3学期
国語	・体験したことや思ったことを自分なりの言葉で、事柄の順序を考えて短い文に書けるようにする。 ・語彙を増やし、適切に使うことができる。 ・場面の様子について、想像を広げながら読めるようにする。 ・助詞、句読点、特殊音節を正しく使って文を書けるようにする。 ・話し手を見ながら大事なことを落とさずに聞いたり、聞き手の方を向いて話したりする。	・体験したことを報告する文章や身近な出来事を簡単に説明する文章を、順序に気を付けて書くように、例文を示しながら練習する。適宜、ノートやワークシートに記入する。 ・音読、詩の暗唱、言葉遊び、読み聞かせなどを語彙を増やす機会とし、発表や短作文で使い方を学習していく。 ・学習者用端末を使用して既習漢字の復習を行い、学習の定着を図る。 ・場面の様子を理解するために、デジタルコンテンツを活用しながら絵を見せたり、動作化させたりして言葉に対するイメージを膨らませることができるようにする。 ・劇化などを通して、児童が楽しみながら学習できるようにする。 ・文章の視写を通して、助詞や句読点の正しい使い方、拗音・促音を書く位置を確実に身に付けることができるようにする。 ・友達を発表を聞いたり、自分の意見を発表したりする活動を設定する。		
算数	・基礎的な計算を正確にできる。 ・問題文をよく読み、内容を理解してから立式をする。	・教科書に載っている具体物をブロックなどの半具体物に置き換えて考え、繰り返し操作しながら取り組むことで理解・習熟させる。 ・例を挙げて説明し、自力解決を目指して支援する。半具体物を操作したり、書いて表現したりしながら、考え方を説明したり発表したりできるようにしていく。 ・デジタル教材を有効活用し、児童が視覚的に図形や数量の感覚をつかめるようにする。 ・実測するなどの体験を通し、数量の感覚をつかめるようにする。 ・デジタル教科書やICT機器を活用し、視覚的にわかりやすくする。		
生活	・身近な植物や動物に興味をもち、観察できるようにする。身近な人や社会に進んでかかわろうとする。 ・感動や驚き、気付き、疑問や考えたことを、絵や文に表現できる。 ・気付いたことを、ICT機器を使って表現したり、生活の中で生かすことができるようにしたりする。	・興味をもてる素材や活動を用意し、人や自然、社会と進んで関わりをもてるようにする。 ・感性に働きかける学習活動を設定し、体験したことや感じたことを表現する場を設ける。 ・気付いたことを学習者用端末に記録として残し、生活の中で生かしていけるよう、家庭と連携をとる。 ・デジタルコンテンツを必要に応じて活用し、児童が視覚的に活動に興味・関心を向けられるようにする。		
音楽	・音楽表現を楽しむために、歌唱、器楽、音楽作りの技能を身に付けられるようにする。 ・表現に対して思いをもつことや曲や演奏の楽しさを見いだしながら聴くことができるようにする。 ・音楽経験を活かしながら楽しく音楽活動をする。	・声を合わせて歌ったり、リズム遊びをしたり、リズム打楽器を使い、合奏しながら、音楽活動の楽しさを感じるようにする。 ・鍵盤ハーモニカの用意の仕方、指使いなど基本的なことを繰り返し指導し、簡単な旋律を演奏できるようにする。 ・様々な曲を聴き、曲想や音楽の構造などに気付くようにする。		
図工	・一人一人が楽しみながら自分の思いを表現できるようにする。 ・身の回りの作品などから、面白さや楽しさを感じ取ることができるようにする。	・様々な道具、材料の使い方や技能を繰り返し指導し、それらを生かして描いたりつくったりする。 ・題材名を工夫し、意欲をもって取り組むことができるようにする。 ・よさや面白さを伝え合いながらお互いの作品を鑑賞させる。 ・学習者用端末を使用して自分の表現したいものを見つけたり、写真を撮ったりする。		
体育	・多様な運動に意欲的に取り組むことができるようにする。 ・ルールを理解し、協力して運動することができるようにする。 ・めあてをもち、様々な運動に必要な動きを身に付けられるようにする。	・運動やゲームを組み合わせ、楽しく遊びながら身体を鍛え、体力を向上させる。 ・視覚教材や動き等、様々な技を示し、意欲を高める。 ・場の工夫をして、子供たちが自ら運動したくなるように興味・感心を高める。 ・学習者用端末を使用して自分の動きを客観的に見て、課題を考える。		
道徳	・善悪の判断をし、うそをついたりごまかしたりしないで生活することの大切さに気付くことができるようにする。 ・気持ちのよい挨拶、言葉遣い、きまりを守ることの大切さに気付けるようにする。 ・生きることの素晴らしさを知り、自分の命も他人の命も大切にすることに気付けるようにする。	・文章に書かれていることをとらえやすくするために、場面絵を準備し、実生活と結びつけた学習の流れを工夫する。 ・役扮演技を取り入れ、登場人物の気持ちや立場を考えられるようにする。 ・他教科との関連をもたせながら、自分も他人も大切にすることを日頃から考えることができるようにする。 ・振り返りの時間をもち、授業で学んだことを自分で考え、ワークシートに書くことができるようにする。 ・デジタル教科書を範読等で活用し、児童の関心を集める。 ・一つの教材を一人の教員が全学級で行い、より深い教材研究を行う。		
特別活動	・話し合いの進め方に沿って、自分の意見を発表したり、他者の意見をよく聞いたりする。 ・基本的な生活習慣や、約束やきまりを守ることの大切さを理解する。 ・希望や目標をもち、その実現に向けて日常の生活をよりよくしようとする。	・学級会の基本的な流れの指導を行い、適切な評価と支援を行う。型が定まったら、自分たちで進行できるよう支援する。 ・掲示物を作成するなどして、計画的に指導し徹底させる。個に応じて繰り返し指導したり、家庭と連携したりする。目標に対しての振り返りをし、適切な評価と支援を行う。 ・実行委員制度を取り入れ全員が体験することで、日々の生活を楽しんで過ごせるようにする。		

令和6年度 第2学年授業改善推進プラン

	伸ばしたい力	授業改善プラン	評価（１～４）	
			2学期	3学期
国語	・話し手を見ながら大事なことを落とさずに聞いたり、順序に気を付けて聞き手の方を向いて話したりできるようにする。 ・助詞、句読点、特殊音節を正しく使って文章を表現できるようにする。 ・既習の漢字を正しく覚え、書くことができるようにする。	・相手意識をもち、聞き手が聞き取りやすいように、口を大きく開けて、明瞭な声で話すようにする。語型を用いて話すようにする。 ・話し手を見て、最後まで黙って聞くように指導する。 ・読書、音読等で語彙を増やす。学習感想等の短作文作りを通して、自分の思いを文章に表現できるようにする。 ・場面の様子を理解しやすくするために、デジタル教科書やICT機器を活用して視覚的に分かりやすい授業を行い、想像を広げられるようにする。 ・漢字学習の時間を確実に設け、ドリルや学習者用端末教材等を活用しながら既習漢字の定着を図る。また、小テストを定期的に行うことで、定着を確認する。		
算数	・基礎的な計算や測定、作図を正確に行うことができるようにする。 ・数や量、形に着目して考え、表現したり比べたりできるようにする。	・たし算・ひき算の繰り上がり・繰り下がりでは、計算過程を残し、計算処理が視覚的に確認できるようにして筆算に取り組ませる。かけ算では、九九の暗記とかけ算の意味を関連付けながら学習を進め、意欲をもって練習し、かけ算九九の定着を図る。 ・解決方法の見通しをもたせる。自力解決の時間を十分に確保する。 ・具体物や半具体物を操作する体験活動を通して、事象に対する思考力を伸ばす。 ・デジタル教科書やICT機器を活用して視覚的に分かりやすい授業を行い、基礎の定着をはかる。		
生活	・身近な自然や社会に進んで関わり、活動を通して気付いたことや楽しかったことを表現できるようにする。 ・自立への基礎となるよう、具体的な体験や活動を通し、自分自身や自分の生活について気付くことができるようにする。	・観察カードに見る視点を明示し、いつでも表現のポイントが確認できるようにする。観察カードを掲示し、見合うことから、友達の用いた表現の仕方にふれ、学びを広げていく。 ・町探検など、地域の人と関わり合えるよう、これまでの生活経験などを十分想起させ、「やってみよう」とを引き出せるようにする。児童たちの思いが実現できるよう、地域の施設や人と連携を図る。		
音楽	・音楽表現を楽しむために、歌唱、器楽、音楽作りの技能を身に付けることができるようにする。 ・表現に対して思いをもつことや曲や演奏の楽しさを見いだしながら聴くことができるようにする。 ・音楽経験を活かしながら楽しく音楽活動をする。	・歌と鍵盤ハーモニカを組み合わせたり、リズム遊び、音楽作りを取り入れたりすることで、音楽活動の楽しさを感じるようにする。 ・交互唱や交奏、個別唱や個別奏の時間をとり、友達の奏でる音を楽しく聴く機会を増やすようにする。 ・様々な曲を聴き、曲想と音楽の構造などに気付くようにする。		
図工	・材料からイメージを広げて、自分らしい発想ができるようにする。 ・身の回りの作品の形や色などから、面白さに気付いたり、よさを感じたりできるようにする。	・様々な材料や道具にふれる経験を増やし、豊かな感性を育む。 ・イメージや発想が広がるような題材を設定する。 ・自分や友達の作品をじっくりと見て、写真を撮って共有する。さらに、感じたことや気付いたことを鑑賞カードやICT機器等の記録に残し、共有する。		
体育	・多様な運動に意欲的に取り組むことができるようにする。 ・ルールを理解し、協力して運動する。 ・めあてをもち、様々な運動に必要な動きを身に付けることができるようにする。	・活動の場を用意したり、自分たちが場を工夫する活動を取り入れたりして、様々な運動を経験させる。 ・かわり合いを取り入れ、各種の運動を楽しむための活動の仕方や遊びのルールなどを児童の実態に応じて工夫する。 ・主運動前に取り組む補助運動を工夫し、学ばせたい動きを身に付けさせていく。 ・学習者用端末の録画機能を用いて、自分の運動している姿を客観的に見られるようにする。		
道徳	・自他の生命の大切さへの気付きを基に、自己を見つめ、自分の生き方について考えることができるようにする。 ・友達と仲良くすることの大切さへの気付きを基に、自己を見つめ、生き方について考えることができるようにする。	・ねらいを明確にし、そのねらいにせまるための教材提示、発問構成や役割演技などの活動を吟味する。 ・自己を見つめる時間を十分に確保するとともに、よりねらいに迫った振り返りができるよう発問を工夫する。 ・振り返り記録を積み重ねて、自分を客観的に認知する助けとする。 ・一人の教員が一つの教材で、全学級で授業を行う。		
特別活動	・話し合いの進め方に沿って、自分の意見を発表したり、他者の意見をよく聞いたりする。 ・基本的な生活習慣や、約束やきまりを守ることの大切さを理解する。 ・この1年でどのようになりたいかについて話し合い、希望や目標をもって生活できるようにする。	・学級会の基本的な流れの指導を行う。学級会ノートの活用と適切な評価と支援を行う。役割を分担してみんなで協力して行う力を身に付ける。 ・適切な題材を設定し、計画的に指導する。個に応じて繰り返し指導したり、家庭と連携したりする。 ・目標に対しての振り返りをし、適切な評価と支援を行う。		

令和6年度 第3学年授業改善推進プラン

	伸ばしたい力	授業改善プラン	評価（1～4）	
			2学期	3学期
国語	- 筋道を立てて話し、話の中心を捉えて聞くことができるようにする。 - 叙述を基に、段落相互の関係を考えながら読むことができるようにする。 【はじめ】【中】【終わり】のまとまりを意識し、伝えたいことを明確にして書くことができるようにする。 - 漢字を正しく読み、書くことができるようにする。 - 語彙力を高める。	- 話型の指導や話声の調子や強弱などを工夫することを指導する。 - 単元を見通した課題設定から、到達目標を意識した学習計画を立てる。 - 段落を意識させ、サイドラインをひかせるなどして叙述に着目させる。 - 作文の構成メモやワークシートを用い、推敲しながら作文等を仕上げる。 - 家庭学習で確実に書き取りの復習をし、定期的に行う漢字小テストで定着を図る。 - 日常的に辞書を活用する。また、読書活動を充実させ、語彙力や想像力を育成する。 - デジタル教科書や学習者用端末を有効活用する。		
社会	- 調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。 - 社会に見られる課題を把握し、解決に向けた自分の考えを表現する。 - 地域について調べる学習を通して、自分たちの地域に誇りと愛情、一員としての自覚を養う。	- 学習課題にあった効果的な資料を提示するとともに、必要な情報を得る方法（調べ方）を身に付けさせる。 - 調べて分かったことを図、絵、地図、写真などを用い、パンフレットやポスター、新聞などでまとめる活動を取り入れる。 - 地域の実態に合った教材や学習課題を作り、身近な社会的事象に関心をもって調べられるようにする。 - 学習者用端末やデジタル教材、NHK for schoolを有効活用し、視覚的に疑似体験をさせたり、農家の方にゲストティーチャーとなっていたり、インタビューしたりする。		
算数	- 繰り上がり、繰り下がり、かけ算九九、わり算における計算力を高める。 - 数量や図形などについての「基礎的・基本的」な概念や性質などを理解する。 - 既習の知識及び技能を基に筋道立てて考え、自分の考えを図や式、言葉で表現したり説明したりする。	- ベーシックドリル週間において、前学年の計算の復習をし、習熟を図る。また、学習者用端末を効果的に活用し、個に応じた指導をする。 - 十・小算数スタンダードに沿った問題解決の流れを徹底し、授業の流れをつかみ、見通しをもって学習に取り組ませる。 - 習熟度別指導によってコースに応じた指導を工夫し、「基礎・基本」の定着を図る。 - 既習事項を用いて式や図で考えを整理し、自分の考えを表現したり、具体物を使った「操作的・作業的」活動、実測などの体験的活動、きまりを発見するなどの探究的な活動等を含んだ数学的活動を充実させることで、問題発見・解決につなげられるようにする。 - 友達に考えを話したり聞いたりして、よりよい解決に向けて検討し共有する時間を設け、「思考力・表現力・判断力」を養えるようにする。 - デジタル教科書やICT機器を活用し、視覚的に分かりやすい授業を行う。 - 学習者用端末ドリルでの計算練習を個に応じて取り入れて、基礎学力の定着を図る。		
理科	「自然の事物・現象」の変化や「物の性質・規則性」について表現しようとする。 - 見通しを持って、観察や実験ができるようにする。 - 事象の変化やはたらきについて、より妥当な考えを作り出すことができるようにする。	- 実験や観察の視点を焦点化し、事象、予想、方法の立案、実験、たしかめ、結果、まとめの流れを確立する。 - 実生活の体験を根拠に予想を立てられるようにする。 - 器具に触れる機会を増やし、関心を高めていく。 - 学習者用端末や、デジタル教科書を有効活用し、学習内容の理解を深める。		
音楽	- 表したい音楽表現するために必要な歌唱、器楽、音楽作りの技能を身に付ける。 - 楽器やリコーダーで簡単な旋律を演奏することができるようにする。 - 曲想と音楽の構造などの関わりに気付く。 - 連んで音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じることができるようにする。	- 歌いたい気持ちを大切に、曲想や音楽の構造に気付きながら演奏を楽しむようにする。 - 発表の機会を設定したり、楽器演奏では、個別指導や学びの工夫を通して楽しく学ぶための指導工夫を行う。		
図工	- 感じたことや材料などをもとに表したいことを思いついたり、形や色、用途などを考えたりする。 - 表したいことに合わせて材料や用具を適切に扱うことができるようにする。	- 発想したことや工夫したことを友達と交流し合い、よきを取り入れながら試行錯誤できるようにする。 - 児童が表したいと思う応用的な表現ができるよう、個の発想に合わせた支援をする。 - ICT機器を活用し、材料や用具等の使い方を動画で確認し視覚的に分かるようにする。		
体育	- 運動の特性に応じた技能を身に付ける。 - 一人一人が自己の課題を把握し、めあてに応じて、場や用具を工夫して取り組んだり、考えたことを友だちに伝えたりする。 - お互いのよさを認め合い、最後まで努力して運動する。	- 準備運動を工夫し、主運動につながるようにする。 - 基礎体力を付ける運動を継続的に取り入れる。 - 運動量を確保し、一人一人の技能の向上を図る。 - よい動き、技のポイントを示し、意識して運動に取り組めるようにする。 - 課題に対しての場や用具を設け、めあてにあったものを選ぶようにする。 - 学習カードを工夫し、毎時間のめあてをもって取り組み、ふり返りを次時に生かしていけるようにする。 - 児童同士の見合いや教え合いの場を設定し、それぞれの運動の特性に応じた技能を身に付けられるように指導する。 - 学習者用端末の録画機能を用いて、自分の運動している姿を客観的に見られるようにする。		
道徳	- 自分の特徴に気付き、長所を伸ばすことができるようにする。 - 約束や決まりを守り、みんなのために働く事の大切さについて理解を深めることができるようにする。 - 自己有用感をもつことができるようにする。	- 発問を精選し、児童の思考を深められるようにする。 - 良い教材を選定し、教材提示を工夫する。 - デジタル教科書を有効活用し、教材の理解を深める。 - 役割演技等お互いの動きを見合う活動を取り入れ、多様な見方や考え方ができるようにする。 - ペアやグループで意見を交流し合う時間を確保し、友達との交流の中で自分の考えを深められるようにする。 - 振り返りの時間を確保し自己を静かに見つめ、授業で学んだことを自分の事として振り返られるよう、ワークシートを各自綴じるようにする。		
総合	- 探究的な活動を通して「主体的・対話的」で深く学ぶことができるようにする。 - 教科を横断的に見ながら、学んだ事を様々な場面で生かす力を身に付ける。	- 課題の発見、情報収集、情報の整理・分析、まとめ・表現活動を各学期ごとにくり返し、探究的な活動をスパイラルで体験しながら学ぶ。その際、ゴールイメージ（見通し）をはっきりとち、自分たちがどんな活動をしているのかを、毎回の授業で明確にする。常に主体的に仲間との協働活動を通して、学びを深めることができるようにする。 - 学習者用端末の活用を習熟させる。（ローマ字入力・簡単なスライド作成）また、スライドなどを活用したプレゼンテーション等を経験させることで、多様な表現ができるようにする。		
外国語活動	- 積極的にコミュニケーションを図ろうとする。 - 外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ。	- ピクチャーカードやチャンツを活用して基礎的な英語の表現に慣れ親しませる。 - ゲームなどの活動を通して、体験的に言葉に対する理解を深めたり、外国語を聴いたり言ったりする機会を多く設けたりする。 - ALTを活用したり、CD、デジタル教材などの視聴覚教材を活用したりして、自然な英語のリズムや音に親しませる。		
特別活動	- 学校生活を豊かにするために、自主的および自治的に活動することができるようにする。 - 議題や、クラスのための活動内容を自分たちで話し合い、解決することができるようにする。 - めあてを意識してよりよい生活を作ることができるようにする。	- みんなのために工夫して活動するための時間を確保する。互いに協力し、良さを認め合う機会をつくる。 - 学級会では、司会グループを経験させる。自分の意見がちがっても、折り合いをつけて、決まったことを尊重する経験を重ねる。 - クラスのめあてを意識して活動したり振り返ったりできるようにする。 - キャリアパスポートファイル及び学級力向上プログラムに取り組み、自己の成長を自覚できるようにするとともに、学級の課題に気付いてよりよい学級づくりを実践できるようにする。		

令和6年度 第4学年授業改善推進プラン

	伸ばしたい力	授業改善プラン	評価（1～4）	
			2学期	3学期
国語	・筋道を立てて考えたり豊かに感じたり想像したりして、自分の思いや考えをまとめることができるようになる。 ・漢字を正しく読み書きし、習った漢字を使うことができるようにする。 ・相手や目的を意識し、伝えたいことを明確にして文章を書くことができるようにする。 ・幅広く読書し、思いや考えを伝えようとする。 ・豊かな語彙で表現できるようにする。	・自分と友達のかえの共通点や相違点を考えさせるような発問を行う。 ・「学びの必然性」を感じられるような課題設定を行う。 ・「文章のどこから考えたのか」という根拠を文章の中から引用するようにさせ、自分の考えを言葉（発言やノート）にできるようにする。 ・段落を意識させ、サイドラインを引かせるなどして叙述に着目させる。 ・自主学習で漢字学習に取り組むことや漢字の1.0問小テストを定期的に行うことで、漢字の定着を図る。 ・構成メモをもとに「はじめ・中・終わり」を意識して書く指導を行う。 ・他教科と連携し、様々なジャンルの本に触れさせる。 ・様子や行動、気持ちや心情を表す語句の量を増やし、使う機会を増えることを意識して言語活動を充実させる。 ・デジタル教科書や学習者用端末を有効活用する。		
社会	・東京都の地理的特色、地域の人々の生活を支える働き、自然災害から人々を守る諸活動、地域の伝統や文化、先人の働きなどについて、調査活動、地図帳、具体的資料を活用して調べたり、まとめたりする。 ・社会的事象の相互の関連、意味、社会にみられる課題をとらえる。また、その解決に向けてどう自分が社会とかかわっていくかを考え、表現する。 ・47都道府県の位置を正しく覚える。	・導入時に身近な内容を取り上げ、予想したり疑問を引き出したりしながら学習問題を設定する。 ・問題解決に向けた学習計画を立て、調べる内容や方法などについて見通しをもたせる。 ・学習問題に応じて、図書資料、学習者用端末、地図帳などを活用させながら課題を追究できるようにする。また、見学や体験活動を学習時期に合わせて設定する。 ・ウェビングマップ等の思考ツールを活用し、社会的事象の相互関連を整理させる。 ・キャッチコピーやパンフレット、ガイドマップ、スライド等、様々なまとめ方を身に付けさせる。図や写真、地図などの取り入れ方も学ばせ、表現の幅を広げられるようにする。 ・地域社会の一員として何ができるかを考えたり話し合ったりする場を設ける。 ・47都道府県については、国語とも関連を図りながら反復練習やテストなどを行い、定着できるようにする。		
算数	・四則計算の処理技能を高める。 ・数量や図形などについての「基礎的・基本的」な概念や性質などを理解する。 ・既習の知識及び技能を基に筋道立てて考え、自分の考えを図や式、言葉で表現したり説明したりする。	・ベレーンクドリル句間や朝学習の時間において、前学年までの復習をし、習熟を図る。また、学習者用端末ドリルを活用し、個の習熟度に応じて繰り返し復習すること定着を図る。 ・十小算数スタンダードに沿った問題解決の流れを徹底し、授業の流れをつかみ、見通しをもって学習に取り組ませる。 ・習熟度別指導によってコースに応じた指導を工夫し、「基礎・基本」の定着を図る。 ・既習事項を用いて式や図で考えを整理し、自分の考えを表現したり、きまりを発見するなどの探究的な活動等を含んだ数学的活動を充実させることで、問題発見・解決に必要とされるようにする。 ・友達に考えを話したり聞いたりして、よりよい解決に向けて検討し共有する時間を設け、「思考力・表現力・判断力」を養えるようにする。 ・デジタル教科書やICT機器を活用し、視覚的に分かりやすい授業を行う。		
理科	・「自然の事物・現象」の変化や「物の性質・規則性」について表現しようとする。 ・見通しを持って、観察や実験ができるようにする。 ・事象の変化やたらきについて、より妥当な考えを作り出すことができるようにする。	・実験や観察の視点を焦点化し、知識・技能の定着につなげていく。 ・個人の考えを全体に広げ、個人に返す機会をつくり、学びを深めていく。 ・実験や観察、考察を通して、日常生活と結び付けた考えをもつことができるようにする。 ・実生活の体験と関連させた学習のまとめ方をする。 ・器具に触れる機会を増やし、関心を高め、高学年に向けて正しく使用できるようにしていく。 ・学習者用端末や、デジタル教科書を有効活用し、学習内容の理解を深める。		
音楽	・表したい音楽表現するために必要な歌唱、器楽、音楽作りの技能を身に付けることができるようにする。 ・楽器やリコーダーで簡単な旋律を演奏することができるようにする。 ・曲想と音楽の構造などの関わりに気付くことができるようにする。 ・進んで音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じられるようにする。	・表現したい気持ちを大切に、曲想や音楽の構造に気付きながら演奏を楽しむようにする。 ・楽器演奏では、個別指導や学びの工夫（学習者用端末を取り入れながら）練習を通して楽しく学ぶための指導工夫を行う。 ・発表や聴き合いの場の設定をし、友達と意見を交流しながら、自分の演奏や考えを振り返るようにする。		
図工	・児童が自分や友達の作品や身近にある美術作品などに関心をもち、それぞれのよさを感じ取り、さらに自分の表現意欲に結びつけていくことができるようにする。	・活動後の振り返りや、友達との対話、多様な美術作品を認識していけるよう鑑賞活動を充実させ、達成感を味わわせるとともに次への表現意欲につなげていく。 ・学習者用端末を活用し、美術作品を調べたりオンラインで美術館を見学したりする活動を取り入れることで美術作品への関心を高める。		
体育	・運動の特性に応じた基本的な動きや技能を身に付け、体力を高める。 ・課題解決のための方法や活動を工夫し、考えたことを他者に伝える。 ・友達と協力して体を動かすことを楽しみ、お互いのよさを認め合うことができるようにする。 ・公正、協力して取り組み、最後まで努力して運動することができるようにする。 ・「体の発達・発育」について関心をもち、健康の大切さに気付く、自己の健康の保持増進に進んで取り組もうとする力を養う。	・1単位時間の活動時間を工夫し、運動量を確保する。 ・技のポイントや児童がポイントをつかめるような学習カード、ICTを活用する。児童同士で動画を取り合い自分の活動を後から振り返りを行えるようにする。 ・様々な練習の場を設定し、児童が自らのめあてに合った場を選択できるようにする。 ・児童同士でアドバイスをし合い、互いに励まし合って課題に取り組む時間を設ける。 ・児童が必要感をもって学習に取り組めるよう、一人一人が自己に合った課題意識を持てるようにする。 ・自分のめあてをもつ、振り返る。次時の自分のめあてをもつという学習の展開を行う。 ・単元導入時に安全について周知し、その都度指導する。		
道徳	・友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことができるようにする。 ・約束やきまりを守り、公徳心をもてるようにする。 ・自己有用感をもてるようにする。 ・ねらいとする価値に対して、「多面的・多角的な見方・考え方」をもてるようにする。	・心をゆさぶる資料や教材の提示から、自己を振り返って考える時間を作る。 ・道徳の授業で学んだことを振り返られるよう、ワークシートを各自観じるようにする。		
総合	・疑問や関心に基づいて自ら課題を見付け、設定することができるようにする。 ・必要な情報を収集し、その情報を「整理・分析」しながら課題を追究することができるようにする。 ・明らかになったことや自身の考えをまとめ、発表方法を工夫して表現することができるようにする。	・地域の人やその道の専門家との交流などを通して、その人たちの取組や生き様に触れ、関心をもったり、共感したり、課題意識をもたったりすることができるようにする。 ・課題を追究できるように、様々な情報収集の方法（図書資料、インターネット資料、インタビュー、調査活動等）を示す。また、協働的な活動を取り入れるなどして、情報の分類・整理の仕方を学ばせる。 ・様々なまとめ方に取り組ませる。（新聞・パンフレット・スライド・〇〇マップ等） ・学習者用端末を活用し、協働したり、まとめたりする活動を通して、効率的な表現方法を選ぶことができるようにする。		
外国語活動	・積極的にコミュニケーションを図ろうとする。 ・外国語の表現に慣れ親しむことができるようにする。 ・日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気付くことができるようにする。	・ピクチャーカードやチャンツを活用して基礎的な英語の表現に慣れ親しませる。 ・ゲームやインタビューなどの活動を通して、体験的に言葉に対する理解を深めたり、外国語を聴いたり言ったりする機会を多く設けたりする。 ・ALTを活用したり、CD、デジタル教材などの視聴覚教材を活用したりし、自然な英語の音やリズムに親しませる。		
特別活動	・集団の中でお互いのよさを認め合うことができるようにする。 ・係や当番活動に責任をもち、自らすすんで行うことで自主性を身に付けることができるようにする。 ・自分たちで課題を見つけて、主体的に話し合い、折り合いを付けたが解決することができるようにする。	・みんなのために工夫して活動するための時間を確保する。互いに協力し、良さを認め合う機会をつくる。 ・理由を明確にしながら自分の意見を伝えるなど、主体性をもった話し合いとなるよう指導・助言をする。また、活動後には振り返りを行う。 ・実行委員会制度を取り入れ、全員が一人役を体験することで、自己有用感を高める。 ・学級会の司会や記録をグループごとに担当し、みんなが経験できるようにする。		

令和6年度 第5学年授業改善推進プラン

	伸ばしたい力	授業改善プラン	評価（１～４）	
			2学期	3学期
国語	・叙述をもとに、自分の考えをもてようにする。 ・根拠を明確にして自分の考えを伝えることができるようにする。 ・作者や筆者の主張を正確に読み取り、自分の考えをまとめることができるようにする。 ・豊かな語彙で表現できるようにする。	・考えたくなるような発問を工夫すると同時に、常に叙述に立ち返るようにさせる。 ・授業の中で様々な形態での話し合い活動を設定し、相手意識をもって意見を言う経験を多く積ませる。 ・考えを修正したり推敲したりしやすいよう、端末を活用する。 ・図書室と連携し日常的に図書に触れさせ、獲得した語彙を継続的に使用させ定着を図る。 ・ICT機器を活用して個に応じた学習を行うようにする。		
社会	・知識として必要な用語を理解する。 ・単元（小単元）の終末場面で、それまでに調べて分かった社会的事象を関連付けたり、総合させたりして考えられるようにする。	・習得しておかなければならない最低限必要の用語や語句をリストアップし、日々の授業で意図的に指導する。 ・小単元の終末場面では、調べたことを整理する時間を設けるとともに、初めの学習問題に立ち返ってまとめるようにする。 ・ICT機器を活用して個に応じた学習を行うようにする。		
算数	・四則計算の処理技能を高められるようにする。 ・数量や図形などについての「基礎的・基本的な概念や性質」などを理解する。 ・既習の知識及び技能を基に筋立てて考え、自分の考えを図や式、言葉で表現したり説明したりする。 ・プログラミングを体験しながら論理的思考力を養う。	・ベシンクドリル旬間において、前学年の計算の復習をし、習熟を図る。また、学習者用端末を効果的に活用し、個に応じた問題に取り組む時間を作る。 ・十小算数スタンダードに沿った問題解決の流れを徹底し、授業の流れをつかみ、見通しをもって学習に取り組ませる。 ・デジタル教科書やICT機器を活用して視覚的にイメージをもたせ、基礎の定着を図る。 ・習熟度別指導によって「基礎・基本」の定着を図る。また、コースの実態に応じて、教材・練習問題の量の工夫を図り、「発展的・補充的学習」の充実を図る。 ・考えを伝え合う時間を設け、他者と自分の考えの異同を考えたり、複数の解決のアイデアからよりよい解決を検討したりすることで、新たなことに気付いたり、互いの考えをよりよいものにしたりする機会を作る。そのことを通して、「数学的な見方・考え方」を働かせられるようにしたり、「思考力・表現力・判断力」を養ったりする。		
理科	・「自然の事物・現象の変化」や「物の性質・規則性」について表現しようとする。 ・観察や実験などの活動記録をまとめていくことができるようにする。 ・事象の変化やはたらきについて、多面的に考察し、より妥当な考えを作り出すことができるようにする。	・実験や観察の視点を焦点化し、結論を自分の言葉でまとめられるようにする。 ・日常と学習内容のつながりをおさえ、何を学ぶかを意識させる。 ・ノートに予想や実験方法、結果、考察を記録する時間を十分に確保する。 ・観察の手法や器具の実演により、必要な技能を明確に伝える。 ・学習を振り返り、学びの定着を確認できる場を設ける。 ・学習者用端末や、デジタル教科書を有効活用し、学習内容の理解を深める。		
音楽	・表したい音楽表現するために必要な歌唱、器楽、音楽作りの技能を身に付けることができるようにする。 ・楽器やリコーダーでパートの役割を理解して演奏することができるようにする。 ・曲想と音楽の構造などの関わりを理解することができるようにする。 ・進んで音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じられるようにする。	・表現したい気持ちを大切に、曲想や音楽の構造に気付きながら演奏を楽しむようにする。 ・楽器演奏では、個別指導や学びの工夫（学習者用端末を取り入れながら）を通して楽しく学ぶための指導工夫をおこなう。連合音楽会を表現発表の場と位置付けるようにする。 ・発表や聴き合いの場の設定をし、友達と意見を交流しながら、自分の演奏や考えを振り返るようにする。		
図工	・これまでの基礎的、基本的な活動を基盤にして、児童が自分で形や色をもとに造形のイメージを組み立てることに挑戦することができるようにする。	・立体に表す活動では、表したいことに合わせてのこぎりやげんこう、彫刻刀、電動糸のこぎりなどの用具や、木材や粘土、身辺材などを適切に扱い、表現の意図と行為を児童自身が結びつけて活動ができるよう、児童に計画を立てさせる。 ・学習者用端末を活用して製作過程を記録し、改良を加えながら製作を行う。		
家庭	・学んだ知識や技能を活用して、自らの生活をよりよくしようとする。 ・グループや友達と一緒に協力して、制作や実習に取り組むことができるようにする。	・実生活と関連した、問題解決的な学習の流れ（①見つける・気付く→②わかる・できる→③生かす・深める）で授業を行う。 ・学校で身に付けた技能や実践したことを家庭で行う学習課題を設ける。 ・実習をする際は、児童が見通しを持って学習に取り組むことができるよう計画→実習→振り返りの流れで行う。 ・ICT機器を活用し、必要に応じてデジタルコンテンツを取り入れながら技能の具体的な理解を支援する。 ・ペアやグループで、教え合いと助け合いの交流ができるようにする。		
体育	・各種の運動の特性に応じた基本的な技能及び健康で安全な生活を営むための知識を身に付けられるようにする。 ・自己やグループの課題を見付け、その解決のための方法を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ・約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に留意したりすること及び、自己の最善を尽くして運動することができるようにする。	・それぞれの運動の楽しさや喜びを味わわせるために、運動量を確保する。 ・子どもが見通しををもち、安心して学習に取り組めるように、めあてをもち、振り返る、次時のめあてを考えるという学習の展開を繰り返す行う。 ・技能ポイントが分かるような学習カードを活用したり、自分の課題を解決するために、選べる場を用意したり、ICT機器を活用させたりして、子どもが自らの課題を解決できるようにする。 ・授業のねらいに応じて学習の形態（個人・ペア・トリオ・小グループなど）を工夫し、深い学びが実現できるように教師が意図的に支援を行う。		
道徳	・自分の考えをもち、友達の考えを受け入れられるようにする。 ・自分の思いや考えを表現したり、発表したりすることができるようにする。 ・自己の生活を振り返り、考えを深められるようにする。	・「ねらい」に向けて、的確に授業展開が行われているか検証し、児童が日常生活で活かすことのできる授業展開を工夫する。また、日ごろから教材研究に取り組む。 ・ペアやグループで話したり、立場を変えて自分の考えを伝えたりするような場を設定する。 ・多様な意見を引き出すことができる教材を用いたり、それぞれの価値観を認め合う雰囲気を作ったりする。		
総合	・生活の中から問いを見いだすことができるようにする。 ・課題解決に取り組む時、多くの情報から必要なものを精選することができるようにする。 ・相手に伝わりやすい発表ができるようにまとめることができるようにする。	・地域人材を活用し、身近なことを見つめ直す機会を通して自分たちの地域や生活の中の課題について具体的に考えられるようにする。 ・他教科と横断的に学習し、自分自身の生活に生かせるようにしていく。 ・ICT機器や書籍・インタビューなどで課題解決に必要な情報を収集させ、効果的な発表の方法を選択して表現する方法について考える時間を確保する。		
外国語活動	・主体的にコミュニケーションを図ろうとする。 ・身近で簡単な事柄について、外国語を用いて自分の考えや気持ちなどを伝え合う。 ・異文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・アルファベットを読んだり書いたりすることに慣れ親しむことができるようにする。	・ビジュアルカードやチャンツを活用して外国語のリズムや音・表現に慣れ親しませ、文字と音の関係に意識を向けさせる声かけを意図的に行う。 ・スピーチやインタビューなど様々な言語活動を通して、体験的に言葉に対する理解を深めたり、外国語を使ってコミュニケーションを図る楽しさを味わったりする場を設ける。 ・ALTや、CD・デジタル教材などの視聴覚教材を積極的に活用し、自然な外国語に親しんだり、異文化に触れたりする機会を多く設ける。 ・アルファベットをなぞったり書き写したりする機会を計画的に設ける。		
特別活動	・集団の一員として、自主的、実践的な態度を育てる。 ・よりよい学級・学校生活づくりに参画する。 ・自分自身を見つめ直し、自己のよさや他者との協働のよさを感じられるようにする。 ・なかよし班活動、委員会活動、クラブ活動での役割を明確にして、責任を果たす。	・学級活動（１）の学級会を中心とした、学級活動の充実を図る。 ・学級活動の実践や振り返りを行うことにより、友達のよいところを目を向けたり、協働することのよさに気付かせる。 ・なかよし班活動、委員会活動、クラブ活動での具体的な役割を確認して参加させる。高学年としての責任を果たし、人との適切なかわり方を身に付けるようにする。		

令和6年度 第6学年授業改善推進プラン

	伸ばしたい力	授業改善プラン	評価（１～４）	
			2学期	3学期
国語	- 相手の言いたいことは何か、自分と比べて同じところと違うところは何かを考えながら聞く、質問をする等、つなげる意識をもたせられるようにする。 - 自分の考えの根拠を明確にして相手に分かりやすく伝えることができるようにする。 - 文章構成を意識しながら自分の考えをまとめられるようにする。 - 作者や筆者の主張を正確に読み取り、自分の考えをまとめられるようにする。	- 討論会などを通して、前の発言者の意見とつなげて自分の意見を言わせるよさについて気づくような指導をする。 - 課題に対して、児童が調べ、考えをもつ時間・場を設ける。 - 学習形態を工夫しながら話し合う活動を充実させ、自分の考えをまとめる機会を多くもつ。 - 考えを伝える上での表現方法や伝えるための様々な語彙を身に付けさせる。 - 学習で学んだ用語を、継続的に使用し定着を図る。 - ICT機器を活用して個に応じた学習を行うようにする。		
社会	- 資料を効果的に活用し、社会的事象の見方や考え方を広げることができるようにする。 - 数量や図形などについての「基礎的・基本的な概念や性質」などを理解する。 - 単元（小単元）の終末場面、それまでに調べて分かった社会的事象に関連付けたり、総合させたりして考えられるようにする。	- 自分で調べ、まとめていく問題解決型の学習形態を取り入れる。 - グラフ等の資料だけではなく視覚資料から世の中の情勢等を読み取れるよう指導する。 - 小単元の終末場面では、調べたことを整理する時間を設けるとともに、初めの学習問題に立ち返ってまとめるようにする。 - ICT機器を活用して個に応じた学習を行うようにする。		
算数	- 四則計算の処理技能を高める。 - 数量や図形などについての「基礎的・基本的な概念や性質」などを理解する。 - 既習の知識及び技能を基に筋道立てて考え、自分の考えを図や式、言葉で表現したり説明したりする。 - プログラミングを体験しながら論理的思考力を高められるようにする。	- ベーシックドリル旬間において、前学年の計算の復習をし、習熟を図る。学習者用端末ドリルを効果的に活用し、個に応じた指導をする。 - グラフ等の資料だけではなく視覚資料から世の中の情勢等を読み取れるよう指導する。 - 十小算数スタンダードに沿った問題解決の流れを徹底し、授業の流れをつかみ、見通しをもって学習に取り組ませる。 - 習熟度別指導によって「基礎・基本の定着」を図る。また、コースの実態に応じて、教材・練習問題の量の工夫を図り、「発展的・補足的学習」の充実を図る。 - 多様な考えに触れる時間を設け、他者と自分の考えの異同を考えたり、複数の解決のアイデアからよりよい解決を検討したりする。これらを通して、「数学的な見方・考え方」を働かせられるようにしたり、「思考力・表現力・判断力」を養ったりする。 - 正多角形の作図を行う活動において、ICT機器を活用して取り組むようにする。		
理科	「自然の事物・現象」の変化や「物の性質・規則性」について表現しようとする。 - 見通しをもって、推論しながら観察や実験ができるようにする。 - 事象の変化やはたらきについて、多面的に考察し、より妥当な考えを作り出すことができるようにする。	- 実験や観察の視点を焦点化し、仮説や予想をもって学習しながら理解につなげていき、結論を自分の言葉でまとめられるようにする。 - 既習事項をもとに推論する時間、実験結果をもとに考える時間を十分に確保する。 - 実験の目的を確認し、手順の意味をおさえてから実験を行う。 - ワークシート、動画資料、学習者用端末を用い、習熟機会を増やす。 - 観察の手本や器具の実演により、求めている技能を明確に伝える。 - 学習者用端末や、デジタル教科書を有効活用し、学習内容の理解を深める。		
音楽	- 表したい音楽表現するために必要な歌唱、器楽、音楽作りの技能を身に付けることができるようにする。 - 楽器やリコーダーでパートの役割を理解して演奏することができるようにする。 - 曲想と音楽の構造などの関わりを理解することができるようにする。 - 進んで音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じられるようにする。	- 表現したい気持ちを大切に、曲想や音楽の構造に気付きながら演奏を楽しむようにする。 - 楽器演奏では、個別指導や学びの工夫を通して（タブレット活用を取り入れながら）楽しく学ぶための指導工夫を行う。 - 発表や聴き合いの場の設定をし、友達と意見を交流しながら、自分の演奏や考えを振り返るようになる。		
図工	児童が感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから自分の表したいことを見つけ、自分自身と向き合い、新しい価値観をつくりだす喜びを味わえるようにする。	児童の内面や将来の夢、感謝の気持ちなどにはたらきかけた題材を設定し、形や色で表したことを自分で価値付けてそれを伝えていく時間を設定する。		
家庭	- 日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 - 学びを日常生活で実践できるようにする。 - 自らの生活を振り返り、生活をよりよくしようとする。	- 身に付けた知識及び技能などを日常生活に活用できるよう家庭や地域との連携を図る。 - 調理や制作等の手順の根拠について考えたり、交流したりする中で実践する喜びを味わったりする。 - 実習は計画→実践→振り返りの手順を繰り返していく。		
体育	- 特性に応じた基本的な技能を身に付け、体力を高められるようにする。 - 仲間と協力したり公正な態度をとったり、安全に留意して運動できるようにする。 - 課題解決のための方法や活動を工夫し、考えたことを他者に伝えられるようにする。 - 病気の予防について、病気の発生要因や予防の方法について理解できるようにする。	- それぞれの運動の楽しさや喜びを味わうことや運動量の確保を大切にすること。 - 自分のめあてをもつ、振り返る、次時の自分のめあてをもつという学習の展開を行う。 - 技能ポイントが分かるような学習カードを活用したり、自分の課題にあった場を選んだり、学習者用端末を活用したりして、課題解決ができるようにする。 - グループ活動を取り入れ、教え合ったりするような学習形態を工夫する。 - 学習者用端末の録画機能を用いて、自分の運動している姿を客観的に見られるようにする。		
道徳	- 自分を正しく評価し、自分の長所や短所を客観的に見つめることができるようにする。 - 自分に自信をもち、互いに認め合えるようにする。 - 多面的、多角的な考えをもつことができるようにする。 - 自己の生き方について考えを深められるようにする。	- ねらいを達成するため、的確に授業展開が行われているか検証し、発問構成、教材提示、板書などの工夫を行う。 - 考えを交流し、多様な考えに触れ、自分の考えを広げたり深めたりできるように、話合いのもち方を工夫する。 - 自己を見つめられるような振り返りの発問を行い、生活に生かせるようにする。		
総合	- 見通しをもって調べたり、他教科の学習や身の回りの生活と関連づけて追究したりする。 - 社会や生活の中から自分で課題を見いだせるようにする。 - 他者を意識したまとめ方、伝え方ができるようにする。	- 課題設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の学習サイクルを大切にすること。 - 新聞やプレゼンテーションなど学習成果を発信する方法を工夫するよう指導する。 - ICT機器を活用し、課題解決に必要な情報を収集させ、効果的な発表の方法を選択して表現させる。 - 年間を通して、一貫したカリキュラムを計画し、指導を行う。		
外国語活動	- 他者に配慮しながら、主体的にコミュニケーションを図ろうとする。 - 身近で簡単な事柄について、外国語を用いて自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができるようにする。 - 異文化に対する理解を深められるようにする。 - アルファベットを読んだり、4線に正しく書き写したりすることに慣れ親しむ。	- ビジュアルカードやチャンツを活用して外国語のリズムや音・表現に慣れ親しませる。 - スピーチやインタビューなど様々な言語活動を通して、体験的に言葉に対する理解を深めたり、外国語を使ってコミュニケーションを図る楽しさを味わったりする場を設ける。 - ALTや、CD・デジタル教材などの視聴覚教材を積極的に活用し、自然な外国語に親しんだり、異文化に触れたりする機会を多く設ける。 - 英語を書くときのルールを意識させて、4線上に単語や文章を正しく書き写す活動を行って書くことに慣れ親しませる。 - 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を読んで意味が分かるようにしていく。		
特別活動	- よりよい学校生活を見据えて自分たちで課題を見い出し、自主的、実践的に活動する態度を育てる。 - 学級活動や学校行事、たてわり班活動、委員会活動、クラブ活動を通して集団の一員としての意識をもてるようにする。 - 学級のための活動内容を自分たちで話し合い、合意形成を図りながら解決することができるようにする。 - 自己のよさや他者との協働のよさを感じられるようにする。 - 将来を見据えて、自己の行動を考えることができるようにする。	- 学級活動、たてわり班活動や、クラブ・委員会活動の中で、話し合い時間を十分に確保し、物事を解決し、実践・実現していく機会を設定する。 - 年10回以上の学級活動（1）を設定し、話し合いにおいてよりよく話をまとめていく合意形成の基礎を培う。 - 学校行事の前や進級・進学前に学級活動（3）の充実を図り、自分の目標を見付け、学校生活を送れるようにする。		